

ブドウ「紅伊豆」に対する花振り防止剤の使用法

(園試大迫試験地)

1. 背景とねらい

ブドウ「紅伊豆」は花振り性があることから、高品質安定生産を進めるためには結実向上が重要課題となっている地域がある。従来その対策として、摘心、棚下に一部の枝を下げ樹勢のコントロールをする等の手間のかかる作業を行っているが、現地からはより簡易な結実安定技術の開発を強く要望されていた。

このため、新たな対策として、植物成長調節剤「フラスター液剤」の利用について検討を重ねてきた結果、花振り防止効果が確認されたので、使用時期、濃度等について現在までに得られた成果を指導上の参考に供する。

2. 技術の内容

1) 使用時期及び濃度

有効成分及び含量 (商品名)	使用時期	希釈倍数	散布量
メコトクロロト 44.0% (フラスター液剤)	展葉7~8枚時	500倍	100~150cm ² /10a

2) 単剤で使用し、総使用回数は年1回とする。

3. 指導上の留意事項

- 1) 強樹勢により花振りの強い園地で使用することにより、結実が向上する。
- 2) 重複散布、高濃度散布は著しい伸長抑制効果を生ずる場合があるので行わない(本剤の散布適期は比較的幅があるので、晴天の日を選び散布する)。
- 3) 花穂及び新梢全体にムラなく散布する。
- 4) 本剤の処理により節間長が抑制されるが、葉枚数、果形の変化、果実の肥大等への影響は認められない。
- 5) 本剤の使用により果梗が短くなる傾向がみられるので、開花前の花穂の整形は従来より房を長めに(支梗数を多く)し、さらに、摘粒は密着する果房下部を中心に行う。
- 6) 本剤を処理しても開花、成熟期等の生態に変化はなく、また、次年度の発芽、開花等への影響も認められない。
- 7) 本剤の使用により一部葉脈間または葉縁部の黄化を生じる場合があるが実用上問題はない。

4. 試験成績概要

表1 新梢伸長 (cm) (1993)

区名	処理時展葉 枚数 (枚)	調査日					
		6/2	6/8	6/16	6/23	6/30	7/7
5 葉期	5.2	33.3	47.4	75.8	99.6	121.9	142.6
7 葉期	6.9	34.3	51.3	77.9	97.4	118.2	132.7
無処理	—	32.7	49.7	92.7	122.5	156.5	184.5

注1) 供試樹：紅伊豆／5BB、9年生、短梢垣根仕立

2) 処理月日：5葉期区、6月2日、7葉期区、6月8日

3) 処理条件：500倍、77⁰ロ-fBI 1,000倍加用、150cm²/10a

表2 花穂長 (cm) (1993)

区名	処理時展葉 枚数 (枚)	調査日			
		6/2	6/8	6/16	6/23
5 葉期	5.2	3.6	5.5	9.1	10.4
7 葉期	6.9	3.6	6.1	10.0	11.5
無処理	—	3.9	6.6	11.6	12.9

注1) 供試樹、処理月日、処理条件は表1に同じ。

2) 第1花穂長を調査。

表3 結実状況 (1993)

区名	処理時展葉数 (枚)	房長	全果数	有核果数	含核数	無核果率
		(cm)	(粒)	(粒)	(個)	(%)
5 葉期	5.5	20.0	69.8	62.4	1.2	10.1
7 葉期	6.7	20.5	90.8	80.2	1.2	11.2
無処理	—	22.3	82.4	73.8	1.1	9.6

注1) 供試樹：紅伊豆／SO4、11年生、長梢平棚仕立

2) 処理月日、処理条件は表1に同じ。

3) 調査日：8月5日

4) 第2果房（無整房）を調査。